

がんばるぞ!
南相馬!



介護のバトンをつなぐ

介護応援職員
社会福祉法人「中心会」
えらまさこ
江良雅子さん (47歳)

人手不足が深刻になっている市内の介護施設に「全国社会福祉施設経営協議会」の協力で職員が派遣されています。原町区の福寿園には神奈川県、長寿荘には福岡県、竹水園には北海道から職員が駆け付けています。派遣が始まった6月は宿泊施設やアパート不足から、宮城県の一部から1時間30分以上の通勤を強いられていたものの、8月には介護応援職員のための宿泊施設が完成し、過酷な状況は解消されました。

原町区高見町の特別養護老人ホーム福寿園には、神奈川県海老名市の社会福祉法人「中心会」から江良雅子さんが派遣されています。ヘルパー2級の資格を持ち、震災当初からボランティアとして活動したかったという江良さんの仕事は、午前は入浴の介助、午後は担当のエリアで食事やトイレなどの介助を行っています。始めは「自分が役に立っているのか」と考えるときもありましたが、「遠くから来ていただいている方がとうとう入所されている方から声を掛けられ、胸に込み上げるものがありました」。

私たち中心会の派遣は2週間と短期間ですが、即戦力として期待に応え、次の職員にバトンをつないでいきます。



この広報誌は再生紙とエコマーク認定
大豆油インキを使用しています。